

「健康長寿」長野県佐久市の地域包括ケアを活かしたタイ、チョンブリ県サンスク町における多職種連携による高齢者ケアプロジェクト (第2期) (2020年～2024年)



多職種連携+タイ式ケアで寝たきりゼロを目指す！

■実施団体：

長野県佐久市
学校法人佐久学園 佐久大学

■対象国・地域：

タイ王国チョンブリ県サンスク町

■現地カウンターパート

サンスク町、タイ国立ブラパ大学
ブラパ大学病院、サミティベート病院



■協力内容：

- 生活習慣病の予防活動を行う糖尿病療養指導士の育成
- 疾患別リハビリテーションの知識・技術を身に付けたヘルスボランティア(HVs)の育成
- 地域での認知症予防活動の展開

■団体のこれまでの取り組み：

佐久市はジャパンブランドの健康長寿推進事業を展開し、海外からの多くの研修員を受け入れてきた。先行の草の根事業（2016-2018）ではサンスク町をパイロット地域として町と医療機関・大学とのネットワークの構築や在宅ケアシステムを導入している。

■事業実施の背景：

タイ王国の高齢化率（65歳以上人口割合）は10.5%で、脳血管疾患を起因とする寝たきり高齢者も多く見られる。サンスク町では、要介護高齢者数に対し専門職の数、医師の介入、福祉機器の活用が限定的な中、生活習慣病の予防や認知症対策も不足しており、将来的に要介護者の増加とそれに伴う高齢者ケアの負担増が予想される。

タイ王国の課題と成果

課題①

専門職人材の育成と職種間での連携促進

成果①

21名の専門職が、本邦で糖尿病療養指導士研修、嚥下障害の方法等を修了。帰国後に学んだ知識・技術を活かし、延べ200名のHVsが住民への指導を行い、地域での巡回診療の際、行政の保健医療職と有効な連携行動が取れるようになった。

課題②

地域での自発的な認知症予防活動の推進

成果②

専門職者の伝達講習や現地研修を受けたHVs・対象住民の50%以上が、認知症予防活動を自発的に実践している。

【エピソード】～兄弟が25年ぶりに再会～

85歳の兄が理学療法士による歩行訓練を受け、HVsの協力を得て大きな段差や階段を降り、10年間寝たきりだった弟の家の訪問が実現。兄の、弟に会いたい！という希望が叶った。

事業の波及効果



佐久市は「健康長寿」の町で有名。市、大学、病院、産業支援センターが関わりオール佐久の事業として実施。超高齢社会モデルを示すと共に、佐久ブランドの周知と佐久市関係者の結束がいつそう強まり、佐久市の活性化に繋がった。



サンスク町の町長、国立ブラパ大学看護学部長はタイの国内及び国際学会に招かれプロジェクトの活動について発表。また、ブラパ大学内に高齢者施設の建設が始まった。更に、近隣県から見学者がサンスク町を訪問。特に隣のラヨン県では、サンスク町の活動がインパクトを与えた結果、高齢者福祉センター建設構想が策定された。